

## 4 視点4「評価の工夫」

### (1) 目的

低学年からの英語科の意義は、早くから音声やリズムに慣れることにある。中学年は、会話を通してのコミュニケーションや語学への興味を深めることができる。しかし、高学年になると教科となり、「できる」「できない」が明らかになり、苦手意識を持つ児童も出てくる。評価を通して格差を是正し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげることを目的に、評価の工夫に取り組んだ。

### (2) 実践と方法

〈実践例〉 5年、U.5「Where is the post office?」 U.6「What would you like?」

「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の五領域を3観点に分けて授業中に評価することは困難である。

そこで、指導と評価の一体化を目指して、授業中の見取りや中間評価、授業後のポートフォリオ（感想）とテストを使い、評価を各自の学習にフィードバックできるようにした。

#### ア 導入時：チャンツでの評価（「聞くこと」「読むこと」）

チャンツを一斉に唱えても、各自が言えているかは分からない。そこで、2列になって、行先や注文を尋ねたり答えたりするチャンツを行うことで、各自が互いに言えているかどうかをチェックした。言えていない児童には、児童同士で言い方を教え合うことを行った。

また、最初に単語や定型文を紹介するときに、いきなり言い方を提示するのではなく、パネルにある文字から単語の言い方を予想したり、文字を途中まで示して、既習事項から文を推測させたりした。

#### イ 展開：会話練習での中間評価（「話すこと [やり取り]」）

会話をペアで練習する中で、その単元で教えられた表現だけでなく、既習の表現を使って会話したり、もっと中身を尋ね合おうとしているペアを見つけ、それを皆に発表する場を作った。発表した児童だけでなく、他の児童の興味や関心、楽しさの向上にもつながり、次時では他の児童も真似していた。この中間評価で、表現を広げたり、既習事項を振り返ったりすることができ

た。また、コミュニケーションポイントの1つである様々なリアクションを使うペアを紹介すると、他の児童の表現の幅も広がった。例えば、U.6では、「大盛」の注文の仕方をALTに聞いたり、既習の色の尋ね方を使ったりしながら、オムレツの盛りや色を尋ね、会話を楽しく続ける場面を紹介した。

また、それまで、英語の授業に参加しなかった児童が、「やり方がわからない。教えて。」と、自分から尋ねに来た後、メニューの中で、一番安い品物の値段をペアで尋ね合っていた。学習後の感想には、「言葉を覚えて言葉が一気に広がった。」と記した(資料16)。

この言葉を覚えることにより、いきなり「おはよう」がひらけた。このままこの言葉を覚えてもっともっと言葉をひらけていこう。

資料16 児童の感想

ウ 終末：単元末のクイズでの評価  
 (「話すこと [発表]」)

U.6では、単元の終わりに、各自で「御船町に欲しい施設」を地図上に作り、ペアで行き方やその施設が欲しい理由を尋ねたり答えたりした上で、クイズ形式にして自分の考えを発表する場を作った。

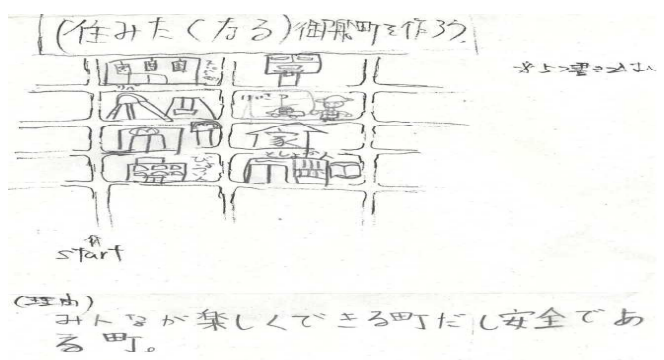
班全員が作った地図を黒板に貼り、どの施設が欲しいかについて、皆が班の代表に尋ね、代表が答える中で、代表の作った地図はどれかを当てるクイズである。最後に、その理由も尋ねた(資料17)。例えば、班の代表が、「もっと大きい警察署 (office でなく station) が欲しい。」と答え、理由を尋ねられると、日本語で「安全な町にしたいから」と述べた。

(資料18、19)

資料19 振り返りカードから

第3過程	(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Go straight for ~ blocks. Turn left. I can see the ~. Is it Ok? /That's right.(Ok.)または No.</li> <li>○ 外国の地図記号について会話を聞いて予想する</li> <li>○ f, y, g, qの書き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室に、行きたい場所を書いた絵をはり、自分の行きたい場所を相手に案内して紹介合う</li> <li>・地図記号等、他国との違いがあることを知って他国の習慣に興味を持つことができる。</li> <li>・小文字について理解し、書くことができる。</li> </ul>
		「話すこと」「聞くこと」 (ワークシート、行動観察)	【思】互いの行きたい場所に、行きつくように工夫して会話している。
		「書くこと」	【態】互いの行きたい場所を知ろうとしてい 【知】4つの小文字を書くことができる。

資料17 U.5 指導計画と評価計画



資料18 U.5 地図づくり

いろいろな英語をしみんが好きなことが分かったり、協力とかがあて楽しかったです

【学習後の感想】  
 みんなで工夫していったから、ふつうに英語のべんきょうするよりか分かったし、たのしかったです。

【学習後の感想】  
 法文のしかたをして外国の注文のしかたがあつたし、びんごめたし、ペアで楽しいとおもしろい、(絵とか)作れよかったです。

エ テスト：単元末のテストでの評価（「聞くこと」「書くこと」）

テストは、評価のための評価で終わらずに、できていないところをリカバーする場を作り、児童の苦手な事項を知って指導することが重要である。

U. 6 では、3桁の数字の聞き取りが難しい事が分かった。テスト後に、やり直しの時間を作り、もう一度数字を聞き取ったり、それでもわからない時は周りの児童が、桁ごとに繰り返して発音して理解を促した。

また、アルファベットを正確に書くときにiやtを罫線の間にかくことや、pやq、yの下段の使い方に難があったため、テスト後に教科書のアルファベット表を見直すように意識させ、正確に書き直す時間を確保した。

#### （4）成果と課題

##### ア 成果

○授業中の見取り、授業後のポートフォリオ（感想）とテストを使って評価し、各自の学習にフィードバックしたり、児童の活動のよい部分を共有化したり、児童どうしの教え合いの場を設けたりすることで、3観点の「できる」「できない」の格差是正や、コミュニケーションの質の向上につなげることができた。

○相互評価により、友達のよいところを自分の表現に取り入れようとしたり、振り返りカードで自分を振り返って次時への意欲を高めたりできた。

##### イ 課題

○授業の中では積極的に発表する児童が多いが、1時間の中で全員の発表は難しかった。また、発表をせずとも工夫した会話が見受けられることがあったので、しっかりと見取り、適切に評価していきたい。

○感想だけでなく、会話の中でどんな工夫をしたかについても、学習末に記述させ、次時に生かせるようにしたい。

小学校英語の意味は、外国の文化や考え方との違いを知り、もっと知りたいという興味や、これからもっと学習したいという意欲を持たせることにあると思う。評価を生かし、英語嫌いを増やさないようにしたい。